

浜松医科大学 地域医療支援学講座  
平成 30 年度（2018 年度）実績報告書



浜松医科大学 医学部医学科 地域医療支援学講座  
（静岡県寄附講座）

平成 31 年（2019 年）3 月

浜松医科大学 地域医療支援学講座  
平成 30 年度（2018 年度）実績報告書 目次

はじめに	1
第 1 章 地域医療支援学講座の概要及び事業計画	3
第 2 章 平成 30 年度（2018 年度）事業実績	
1 調査・分析	【総括】 5
	【内容】 (1)方法 7
	(2)結果 7
	(3)考察 16
	図表 35
2 医師派遣調整	【総括】 77
	【取組】 本文 79
	図表 83
第 3 章 平成 30 年度（2018 年度）活動実績	89
第 4 章 平成 30 年度（2018 年度）業績一覧	93
第 5 章 各種会議報告、学会・研究会発表資料（抜粋）	95
おわりに	141

注：本報告書においては、年度を元号で表示し、西暦を括弧書きで併記した。



## はじめに



浜松医科大学 医学部医学科 地域医療支援学講座  
特任准教授 竹内 浩視

静岡県内で医師を養成する医学部は、昭和49年(1974年)に開学した浜松医科大学(本学)1校のみで、人口当たりの医学部入学定員は全国平均を大きく下回っています。また、平成16年度(2004年度)から必修化された医師臨床研修制度等に伴い、全国的に地方の医師不足が顕著になる中、本県においても、医師の不足と県内での地域や診療科の偏在は長年の課題となってきました。さらに、平成30年度(2018年度)から開始された新専門医制度により、若手医師の大都市圏への集中は更に加速し、医師の働き方改革が求められている中、地域医療の確保は喫緊の課題となっています。

一方、少子高齢化の急速な進行に伴い超高齢社会となった今日、人口は既に減少局面に入り、数年後には団塊の世代が75歳以上となることから、医療・介護需要の大きな変化が見込まれています。これらの動向を踏まえ、医療・介護の役割分担を促進し、効率的な医療提供体制を構築するため、平成27年度末(2015年度末)に、病床機能の分化・連携を促進する地域医療構想が本県でも策定されるなど、地域医療の在り方についても大きな転換期を迎えています。

このような状況の下、平成30年(2018年)4月1日に、本県における医療需要等の調査・分析と、医師不足地域における研修体制の充実を通じて県内の医師の偏在解消を図ることを目的に、静岡県の寄附講座として「地域医療支援学講座」が本学に設置されました。

本県の医療提供体制は、本学のみならず、本学開学以前から長年にわたり医師を派遣してきた複数の県外大学からの支援にも支えられてきました。そのため、本県の医療提供体制は、地域はもとより、同じ地域の中でも病院により背景が異なる大変複雑な状況にあり、本講座には、極めて困難ながらも重要な課題が課せられているものと理解しています。

設置初年度となる今年度は模索の一年になりましたが、静岡県の推薦をいただき厚生労働省の「地域医療構想アドバイザー」に就任し、県内の地域医療構想調整区域(概ね二次医療圏単位)ごとに設置された地域医療構想会議に出席したほか、静岡県からは静岡県医療対策協議会委員、静岡県医師会からは2つの委員会委員の委嘱をいただき、各種会議に出席しました。これらの会議では、これまでの経験から、出席者間の相互理解が深まるような発言や情報提供等に努めてきました。また、本来の業務である調査・分析及び研修体制の充実については、来年度以降の活動の基盤やモデル的な取組ができたものと考えています。今回作成した実績報告書は、この一年の事業実績と活動実績を取りまとめたものです。内容的に十分ではない部分もありますが、日頃の業務等にご活用いただくとともに、忌憚のないご意見等をお寄せいただければ幸いです。

最後になりますが、今後とも地域医療支援学講座にご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。